

学習成果をどう測定し、活用するか？

■講師



山田 剛史

(愛媛大学 教育・学生支援機構 教育企画室 准教授)

神戸大学大学院総合人間科学研究科・博士後期課程修了。博士(学術)。京都大学高等教育研究開発推進センター教務補佐員、島根大学教育開発センター講師・准教授、実施部門長・副センター長を経て、2011年4月より現職。専門は、青年心理学、高等教育論。

■プログラム概要

学習成果測定は、教育の質保証に関する国際的動向の中で喫緊の課題として注目されています(例えば、OECDのAHELO等)。国内では中教審による「学士力」や日本学術会議による「分野別の教育課程編成上の参照基準」等が提起され、急速にアウトカムに基づく学士課程教育の体系化が求められています。しかし、国内外ともに学習成果の測定は概念の曖昧さも含めて十分に議論や実践が成熟しているとは言えない状況です。同時に、その測定方法も多様で、唯一の解は存在しません。そこで、自らの所属する機関の特性・文脈を踏まえつつ、学生調査などを始めとして様々な観点から学習成果の測定に関する多様な実践を蓄積し検証していく必要があります。

本プログラムでは、そうした学習成果測定をめぐる議論を概観し、いくつかの事例やワークを踏まえて、所属組織において望ましい学習成果測定の手段や活用方法について共に深めていきたいと思えます。

■本プログラムの到達目標

1. 学習成果測定をめぐる動向について知り、理解することができる。
2. 学習成果測定に用いられる様々な方法の特徴について知り、理解することができる。
3. 教育改善に活かすためにデータを見る目を身に付けることができる。
4. 所属組織において学習成果測定の結果を有効活用するための方策についてデザインすることができる。